

新生南アフリカとアフリカ非核化条約——●中村弘光 (八千代国際大学教授)

1995年6月24日、南アフリカでは、約1カ月にわたって開催されていたラグビーワールドカップの決勝戦が、南アフリカとニュージーランドの間で行なわれた。この決勝戦は、前評判通り、南アフリカチームの勝利で決着がついた。この決勝戦には、マンデラ大統領をはじめとする南アフリカ国民4000万人の熱烈な応援があった。ここには、新生南アフリカ共和国のアパルトヘイト解消・和解へのたしかな前進が見られた。

この新生南アフリカをめぐる、もう一つの注目すべき動向が同じ時期に進行していた。アフリカ大陸を非核地帯化する条約（アフリカ非核化条約）が、6月26日からアジスアベバで開催されるアフリカ統一機構（OAU）首脳会議で採択される予定であった。

このような広域非核地域の設定は、トラテロルコ条約（1967年、ラテンアメリカ）、ラロトンガ条約（1985年、南太平洋）につづくものである。

アフリカにおける非核化運動は、国連の場では、「サハラにおけるフランス核実験問題に関する1959年11月20日の決議」、「アフリカ非核地帯化宣言」（1961年11月24日国連総会決議〔賛成55、反対0、棄権44〕）などに見られるように、50年代末から問題は提起されていた。核保有国との疑念をもたれていた南アフリカは、民主化・アパルトヘイト解体へ移行中、1993年3月24日、デクラーク大統領が核爆弾開発の事実とその廃棄を発表した。その後、ただちに、アフリカ非核化条約草案作成に協力した。『朝日新聞』の報道によれば、この条約は、核兵器の製造、持ち込み、配備などの禁止条項などの他、域内の原子力平和利用の促進と協力体制の整備も含んでいる。

このアフリカ非核化条約（ペリンダバ条約）は、1995年6月末にアディス・アベバで開催された、OAU首脳会議で、米軍基地のあるディゴガルシア環礁などアフリカ大陸周辺の島々を非核地帯に含めることを明確にした修正案（モーリシャス提案）を組み込んで採択されたと報じられている。

この新生南アフリカ共和国の新しい立場が、アフリカ諸国の経済的・社会的発展に大きくなってこの役割を果たすことになると思われる。